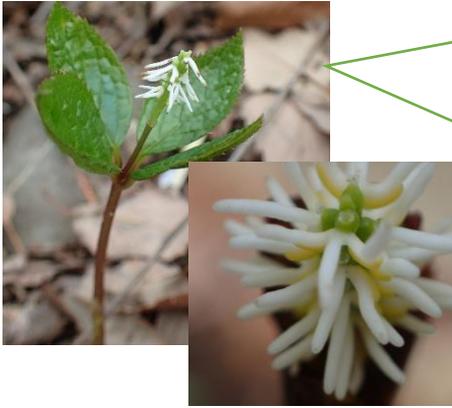


# 日本民家園 花便り4月号(2)

## ～暮らしと植物～



ヒトリシズカ 一人静

道祖神土手

花には花弁もガク片も無く、原始的な花と思われてきましたが、遺伝子を用いた研究から、花弁とガク片を失った進化した花だということが分かったそうです。  
(雄しべ：白色、葯：黄色、雌しべ：緑色)



シャガ

著莪・射干

佐々木家ほか

ヒガンバナ、ヤブカンゾウと同様に種子はできず、根茎で繁殖するため、人為的に全国に広がった史前帰化植物です。人里植物なので、かつては食用など有用植物だったと思われます。



カリン

花梨

広瀬家

庭の表にカリン、裏にカシノキを植え、「金は貸すが借りない」の縁起を担いだ木。果実に含まれる成分は咳や痰などの喉の炎症に効くとされ、カリンの「のど飴」も販売されています。



ゲンゲ・レンゲソウ 紫雲英・蓮華草 北村家畑

室町時代に渡来して以来、緑肥や家畜用の飼料として栽培され、ゲンゲ畑は春の風物詩でした。最近では地力増進や蜜源植物として、人気があります。



ニワトコ

接骨木

北村家ほか

人や馬の打撲骨折の治療には、この枝や幹を煎じて水飴状にした温湿布が一般だったので、どこの家でも畑の土手にニワトコが植えてあったそうです。